

謹賀新年

新年ごあいさつ

津久見市長 吉本幸司

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、平成26年の輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年より国は、日本経済の再生に向け、大胆な金融政策、機動的財政政策、民間投資を喚起する成長戦略という3つの政策を3本の矢として展開してきました。しかしながら、地方の経済状況は厳しい情勢が続いているところであります。津久見市としては、今年4月からの消費税率引き上げの影響による景気の衰退をまねかないよう、経済の再生に向けた国の経済対策も積極的に取り込みながらも、この政策がこの平成26年にどう影響していくのか、十分注視して地域経済を支えていかなければならないと考えて

おります。

さて、津久見市の人口は少子高齢化に歯止めがかからず、高齢化率については36%まで上昇してきました。そこで、高齢者の生きがいを構築すると共に、社会福祉協議会と各地区社協との一層の連携を図り、ふれあいの交流の場の充実に力を入れ、安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいきたいと考えております。

また、昨今増加傾向にある、高齢者に対する悪質業者による被害に対しても、その手口は悪質化、巧妙化する中、消費生活の相談体制を持続的に、より一層の充実に力を入れていきます。

道路整備では、国道217号平岩松崎バイパスをはじめ市道徳浦松崎線



バイパスの工事に取り組んでいくと共に、昨年長目半島線の楠屋・泊ヶ内間の森林管理道が開通しましたので、堅浦地区の港湾整備事業を引き続き推進していきたいと思っております。また、生活道路の整備も積極的に進めていきたいと思っております。

防災面では、青江小学校の校舎改築をはじめ学校の耐震化対策を推進し、避難訓練の実施や防災士の養成、活用など、防災意識の向上や、災害から市民の命を守るための施策を推進していきます。

また、防災拠点のひとつにもなる消防庁舎の移転についても、消防無線のデジタル化に合わせ、早期に実現する方向で進めていきたいと思っております。

津久見の観光につきましては、「つくみイルカ島」を拠点とした新たな取り組みを進めると共に、「ひゅうが井」や「モイカ」、また新たに「つく実山椒」など、津久見の食の魅力を広くPRすると共に、世界的に貴重な発見となった「網代島の宇宙塵」など、今後は観光産業と関連する産業の育成につとめ、昨年誕生した津久見のご当地キャラクター「つくみん」を活用し、県内外に津久見の魅力を発信していきたいと考えております。

このほか、市有地の土地の有効活用を積極的に進め、雇用の促進、企業の誘致など、地域経済の活性化へ繋げていきたいと考えております。

皆様には本年も変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、この一年が希望に満ちた年となりますよう、ご祈念申し上げ新年の挨拶といたします。

